

インド金融政策（2023年2月）

予想通り0.25%ポイントの利上げ、利上げ局面は終盤

2023年2月10日

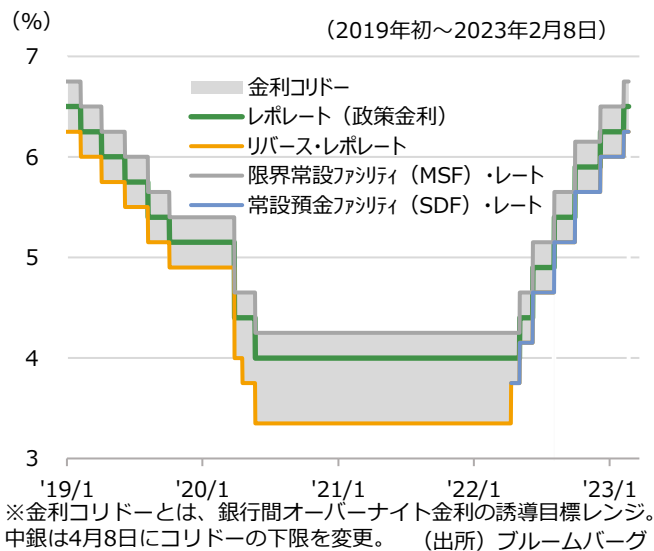
中銀はインフレ抑制に自信、景気見通しは引き続き良好

インド準備銀行（中央銀行）は2月8日（現地）に終了した金融政策決定会合で、政策金利であるレポレートを市場予想通り6.25%から0.25%ポイント引き上げ6.50%にしました【図表1】。声明文では、「金融緩和の解除に引き続き焦点をあてる」との金融引き締めの方角を示す文言が残されましたが、仮に利上げがあっても、あと1回の0.25%ポイントで打ち止めとの見方を維持します。

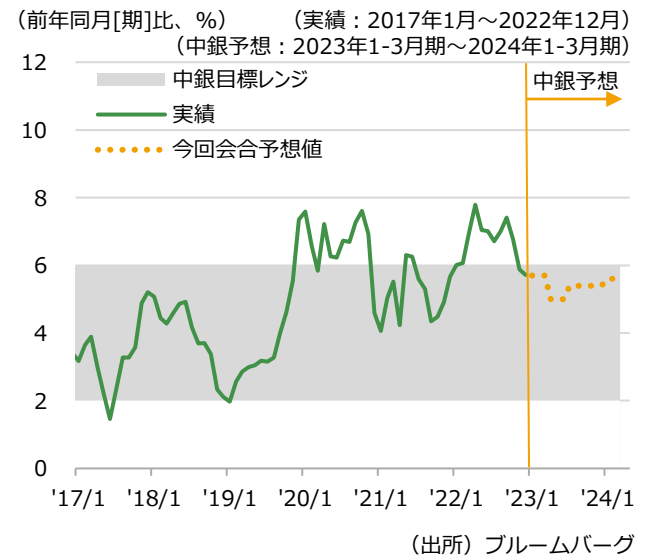
中銀はコアの消費者物価指数、特にサービス価格の上振れを警戒しています。しかし、消費者物価指数の前年同月比は2022年11月以降、中銀の目標レンジである「 $4\pm 2\%$ 」に既に回帰しており、中銀は今後も目標レンジからの逸脱はないとの見通しを示しています【図表2】。中銀のインフレ抑制への自信が高まったと解釈でき、利上げ局面が終盤に差し掛かっている状況に変わりはないと考えます。

利上げ局面においても景気見通しは引き続き良好で、中銀は前回12月の会合から更に実質GDP成長率の見通しを引き上げました。具体的には、2023年4-6月期を前年同期比+7.1%から同+7.8%へ、2023年7-9月期を前年同期比+5.9%から同+6.2%へ引き上げ、2023/24年度（2023年4月～2024年3月）の実質GDP成長率を前年度比+6.4%と予想しています。世界経済の減速にも拘らず、インドでは強い投資需要や家計消費を背景に、好景気が続くと思われています。金融引き締めが景気の腰折れに繋がっていないことはポジティブに評価でき、株式市場の支えになると考えられます。

図表1 主要政策金利および金利コリドー



図表2 消費者物価指数



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。